

平成 30 年度 真狩村社会福祉協議会事業報告

少子高齢化を踏まえた国レベルの動向として、「地域包括ケアの推進」、「地域共生社会」が政策目標に設定され、国、分野、対象者別に進められてきた縦割りの仕組みを見直し、地域の関係者が「我が事」として総合的に対応できる社会を今後目指すべきイメージとしています。

近年、私たちの地域においても少子高齢化や核家族化が急速に進行し、人間関係の希薄化も進み、相互扶助機能も弱まりを見せ地域社会が大きく様変わりする中、高齢者夫婦世帯や一人暮らしの高齢者世帯を急増させ、医療・福祉制度の改正から高齢者も障がい者も、病院、福祉施設から在宅での生活へと移行してきております。

地域における福祉ニーズが様々な形で増大する中、それらの生活課題にきめ細かく対応し、だれもが安心・安全に暮らすことのできる福祉の村づくりを推進するために住民主体の福祉活動の推進を掲げ事業計画を実践してきました。

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるには、社協をはじめ、町内会や民生児童委員、老人クラブ、各種団体とも協力関係を維持しつつ、福祉サービス提供者、ボランティア、NPOなどがネットワークを組み、それぞれの特徴を活かしながら真狩村らしい「地域包括ケア」を目指した地域づくりが求められます。そのためには私たちは地域福祉の推進役として、地域福祉の新しい姿をめざして、地域の住民ニーズに応えた事業展開とより細やかな地域福祉の基盤づくりをめざす必要があります。今後、より住民相互の助け合いや交流の輪を拡大し、共に支え合う地域社会づくりに寄与することが社協の使命でもあり、村民生活に直結した事業の見直しと各種事業の充実と振り返り、継続性のある事業の組み直し、広範な社協PRと広報活動の充実、さらに様々な社会情勢を勘案しながら事業を行えるよう関係機関と協議をしてきました。

平成30年度は、独自の金銭管理事業として、「真狩村金銭管理等支援事業」を実施して参りました。平成29年度から実施している生活支援コーディネーター事業では、地域の各種団体の実態把握やニーズ調査を取り組んできました。高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を一体的な活動として推進してきました。

成年後見制度や権利擁護事業への利用ニーズが高まる中、法人後見受任体制整備を行い対応を図って参りました。

わたしたちは地域住民一人ひとりが、お互いを理解し、支え合いながら、地域における身近な生活課題等に主体的に取り組むことで、いつまでも元気で真狩村に住み続ける仕組み作りを村全体の課題として行政及び関係機関と連携して役職員が一丸となってその役割と期待に応えるため務めて参ります。

法人運営事業

〔1〕役職員の活動強化

各種大会や研修会等に参加し、資質向上の強化に努めた。

- ・ 社協後志社会福祉大会（倶知安町 7 名参加）
- ・ 社協全道社会福祉大会（札幌市 8 名参加）
- ・ 全道社協会長局長会議及び役員研修会（2 回開催札幌市 4 名参加）

- ・後志社協会長局長会議及び研修会（2 回開催 倶知安町 4 名参加）
- ・その他の事務職員研修（19 回 延 26 名参加）

〔2〕会費納入の促進

社会福祉協議会の貴重な自主財源の会費について次のとおり納入を頂きました。

- ・一般会員 752 戸 752,000 円・特別会 11 団体 70,000 円・賛助会員 250 戸 125,000 円
- 合計 947,000 円

〔3〕地域福祉活動等に対する善意の寄付金

- ・寄付者 18 名
- ・寄付金額 770,000 円

〔4〕理事会・評議員会・定例監査の開催

- ・理事会 4 回・評議員会 2 回・監査 4 回実施しました。

〔5〕会員に対する慶弔

- ・弔慰（供花等）31 件・祝い金（各団体等総会等）13 件・協賛金 3 件

〔6〕低所得者等に対する経済的支援

現在の貸付状況が次のとおりであり、その償還指導についても実施しております。

- ・生活福祉資金貸付制度 貸付中件数 1 件
- ・愛情金庫貸付制度 貸付中件数 1 件

〔7〕共同募金運動の推進

共同募金委員会と連携を図り運動を進めてまいりました。

1. 企画・広報事業

〔1〕広報『むつみ』の発行

社会福祉協議会の事業内容を周知する広報誌「むつみ」を 2 回発行しました。

〔2〕『ふれあいの集い』開催

役員を始め、関係機関及びボランティアの皆さんのご協力により楽しい雰囲気の中で開催し好評を得ております。

- ・開催日時・場所 平成 30 年 10 月 29 日【保健福祉センター】
- ・内容 カラオケショー、パフォーマーショー、子供市、抽選会
- ・来場参加者数 延 218 人（ボランティア含む）

2. 地域福祉推進事業

〔1〕ボランティア活動の推進

①絵手紙ボランティア

各学校の協力を得て、小学生が今年からボランティアで 75 歳以上の独居老人に対して『お誕生日おめでとう愛のお便り』として、78 名の方に絵手紙を作成して頂きました。

②生け花ボランティア【会員 1 名】

毎月、生け花を福祉センター内に展示して頂きました。

① シルバーフェスティバル事業【日赤奉仕団他ボランティア 15 名】

日赤奉仕団の皆様にご協力（豚汁）作り等のご協力を頂きました。

④ ふれあいの集い事業【参加ボランティア数 延 29 人】

社協役員・日赤・役場・福心会・地域包括の皆様方にご協力を頂きました。

⑤ 子育て支援センターもちつき会へのボランティア支援

一般ボランティア（3 名）・真狩青年団体協議会（6 名）のボランティア参加の調整を行い、事業運営に参加しました。

〔2〕 自立と社会参加の推進

①各学校・真狩町内・錦町内・各地区連絡協議会・親子の会〔バンビ〕に福祉活動推進のための活動費の助成をしています。

②地域の実態の把握等地域福祉サービスの向上を図るために、真狩村・地域包括支援センター・民生委員協議会との連携を強化してまいりました。

〔3〕 環境美化運動

環境美化運動期間を、4 月 23 日～5 月 2 日に設定し、学校・老人クラブ・真狩町内・錦町内・各地区等にご協力頂き周辺道路、側溝等の清掃を実施しました。

〔4〕 供花ポスター並びに印刷機器の利用

葬儀の際の供花ポスターの利用は、9 件で 280 枚の利用がありました。

供花ポスター印刷機器の貸出し利用は、9 件の利用がありました。

印刷機器の操作のための職員派遣は 7 件ありました。

4. 在宅福祉支援事業

〔1〕 紙パンツ配布事業

要介護者を抱える世帯の経済的な援助と、保健衛生面での支援が出来ました。

・配布対象者 18 名 ・年間配布枚数 6,610 枚（紙パンツ 3020 尿とりパット 3590）

〔2〕 愛の送迎サービス事業

村内に居住するおおむね 75 歳以上の一人暮らし又は、夫婦世帯で診療所への通院及び村内商店での日用品の買い物等の外出時の送迎手段の確保が困難な方の交通手段を確保するために無償で送迎サービスを実施しております。

・該当者 52 人 ・年間実働回数 延 1,239 回

〔3〕 シルバーフェスティバル（高齢者レクリエーション）

村内に居住する高齢者が一同に集い、レクリエーションを通して親睦と健康の維持増進に向けて実施しました。

① 実施日・・・7 月 20 日

② 参加者数・・・延 67 名

③ 協議内容・・・ビンゴ大会・大玉転がし等・昼食会（炊き込みご飯・ソーメン）

〔4〕 在宅高齢者訪問活動事業

村内に居住する概ね 75 歳以上の独居老人世帯を訪問し安否確認をしています。

・訪問者数 22 名 ・訪問年間回数 601 回

[5] 安心カード事業

老人世帯で、病気や怪我で緊急搬送される際、自身の医療情報を緊急隊員に伝えられない事態を想定してカード情報を基に適切に救護出来る体制を目指し、平成 28 年度までに設置した家庭の異動状況を把握し、安心カードの内容の見直しを平成 30 年度以降検討することとしていたが、実現に至らず 31 年度以降に検討を継続する。今年度は、新たに設置した家庭は無し。(包括支援センターで訪問の際に設置していただいています。)

① 対 象 者・・・村内に居住する 65 歳以上のいる世帯

[6] 地域サロン事業

保健福祉センターを拠点に、地域で高齢者や障がい者が生きがい活動と元気に暮らすきっかけづくりを見つけ、地域の人同士のつながりを深める自主活動の場です。また、住民の地域への関心を深め、近隣での助け合いを育む地域づくりを目指すことを目的として実施しています。

★サロン活動内容★

① 食プロ農園クラブ・・・毎月 1 回の活動为目标として活動を実施しており、4 月～9 月にかけて 10 回の活動を行い、延べ 120 人の参加でした。地域で孤立ぎみの精神的知的障害者や引きこもりがちな方を対象に、地域で活動ができる場として、農作業や食事を実施しました。今年度においても保育所の園児と一緒に作付け、収穫作業を行いました。

② 放課後児童の遊びの場として(年間 146 日・延 661 人参加)

今年度は学童に入っていない小学生が放課後の遊びの場としてセンターサロン会場を利用しております。遊びに来た子たちに話しかけ等を行って見守りを行っております。

③ 健康王国クラブの開催(年間 22 回実施・延 228 名参加)

保健福祉センターにおいて、月 2 回(激しいプログラム・ゆったりとしたプログラム) 通信カラオケの健康王国という機能を使って運動を実施し、健康づくりや、介護予防に取り組んでまいりました。

5. 受託事業の利用推進

[1] 日常生活自立支援事業(道社協からの受託事業)

本事業は、認知症や障害等により日常生活になんらかの不安を感じている方の金銭管理のサポートをし、不安のない日常生活をおくってもらえるようにする。

① 平成 30 年度の契約者は継続が 1 件でした。(特養入所のため支援終了)

[1] 真狩村保健福祉センター管理業務 [指定管理]

この施設管理については、利用者から親しまれる環境づくりに努めています。

【保健福祉センター利用状況】

区 分	回 数	利用人数
文化団体	138	1,050
保健関係〔役場〕	135	2,369
高齢者関係	160	2,655
学童保育	531	8,739
その他	44	906
有料関係	2	10
合計	1,010	15,729 人

〔2〕 真狩村除雪介護サービス事業

老人世帯等で除雪が困難な世帯に対して除雪介護サービス費の助成を実施しました。

① 対象者 12 件

② 助成実績額

あ) 降雪時によるシーズンの除雪に関する助成額 392,000 円

い) 申出による作業の除雪に関する助成額 49,000 円

〔3〕 真狩村福祉タクシー利用助成事業

身体障害者〔手帳 1 級～4 級〕精神・知的保健福祉手帳を持った方を対象に、
タクシーを利用する場合の費用の一部を助成し外出時の経済援助を行っています。

助成券・・・年間 30 枚（1 枚あたり 490 円の助成券）

対象者・・・身体障害者 29 名 精神障害者 2 名 計 31 名

利用実績・・・タクシー券利用枚数 延 577 枚

〔4〕 真狩村生活サポートセンター実績報告（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

真狩村より、平成 28 年 10 月から判断能力が不十分な住民が、地域で安心して生活が送れるよう、成年後見制度をはじめとする権利擁護事業の普及、促進及び利用希望者への支援を供与する真狩村生活サポートセンター事業を実施しました。

〔5〕 真狩村生活支援コーディネーター事業実績報告（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

真狩村より、平成 29 年 4 月 1 日から日常生活に支援が必要な高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って生活ができるよう多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築をするために生活支援コーディネーター事業を実施しました。